

平成 18 年 10 月 20 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 精 工 技 研
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 上 野 昌 利
 (コード番号 6834)
 問 合 せ 先 経 営 企 画 室 齋 藤 祐 司
 (TEL . 047 - 388 - 6401)

平成 19 年 3 月 期 中間期・通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 5 月 23 日に公表しました平成 19 年 3 月 期 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)
 中間期、通期の業績予想 (連結・個別) を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1 . 平成 19 年 3 月 期 中間業績予想の修正 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 9 月 30 日)

(1) 連結業績予想 (単位: 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,700	200	510
今 回 修 正 予 想 (B)	3,382	54	270
増 減 額 (B - A)	318	146	240
増 減 率 (%)	8.6%	73.0%	47.0%
(ご 参 考) 前 期 実 績	3,207	892	499

(2) 個別業績予想 (単位: 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,000	140	480
今 回 修 正 予 想 (B)	3,206	34	264
増 減 額 (B - A)	206	106	216
増 減 率 (%)	6.9%	75.7%	45.0%
(ご 参 考) 前 期 実 績	2,997	818	441

(3) 修正の理由

当中間期におきましては、光製品事業においては、6月にNECトーキン株式会社様から光デバイス事業を譲り受け、新たな商品群の獲得と、顧客基盤の拡充を実現いたしました。一方の精機事業におきましては、各国の光ディスク成形メーカーが次世代光ディスクの需要立ち上がりを見据え、既存DVDの製造設備に対する投資を急速に手控えることとなりました。光ディスクの原材料となるポリカーボネートの価格は依然として高く、記録用DVDの

市場価格の下落と相まって成形メーカーの経営を圧迫したことに加え、当中間期はDVDビデオのヒット作も乏しかったことから、成形メーカーの設備投資は想定以上に冷え込むこととなりました。

これらの結果、当中間期の売上高と経常利益は、当初の業績予想を下回る見込みとなりました。

また、光デバイス事業の譲り受けに伴い、譲り受けた設備の一部売却等による特別利益を見込んでおりましたが、これを取り止めたため、当中間期の特別利益は、投資有価証券の売却による406百万円に留まる見込みとなり、当期利益も当初の業績予想を下回る見込みとなりました。

2. 平成19年3月期 通期業績予想の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(1) 連結業績予想 （単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	7,800	610	790
今回修正予想(B)	7,200	140	310
増減額(B-A)	600	470	480
増減率(%)	7.7%	77.0%	60.8%
(ご参考) 前期実績	6,304	1,217	756

(2) 個別業績予想 （単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	6,600	510	740
今回修正予想(B)	6,600	70	290
増減額(B-A)	0	440	450
増減率(%)	0%	86.3%	60.8%
(ご参考) 前期実績	5,795	1,099	672

(3) 修正の理由

当期下半期におきましては、既存DVDの製造設備に対する投資は底這いを続け、次世代DVDの量産化に向けた設備投資の立ち上がりも来期以降となる見通しが強いことから、精機事業の業績が上半期と同水準で推移することが予測されるため、期初に公表した通期業績予想を下方に修正いたしました。

以 上